

フィジー諸島共和国における自然・文化環境保全のための ESD カリキュラム・教材の開発

同志社女子大学
大西 秀之

【活動地域】

フィジー諸島共和国

【概要】

本事業では、近年、グローバリゼーションの進展に伴う開発・近代化によって社会・自然環境・ライフスタイルの変化が著しいオセアニア（南太平洋地域）の島嶼国の一つであるフィジー諸島共和国を対象として、現地住民を主体者とする環境保全に向けたESDモデルの構築とそれを実施するためのESDカリキュラム・教材の作成をめざす。

【目標】

本事業の目標は、途上国に暮らす地域住民の人びとの生活を前提とした「持続的な環境保護」を行うためのESDカリキュラム・教材の構築である。

このような目標の下、本事業では、自然科学や国際世論などが提起する「近代的・普遍的」な価値観・視点をアприオリに受け入れるのではなく、むしろ現地住民が社会・文化に基づくローカルな価値観・視点から「守るべき自然・文化環境」を自らの選択し、そうした自己決定によって「持続的な環境保護」の実現を射程に入れたESDカリキュラム・教材の構築に着手する。

こうしたESDカリキュラム・教材の構築を通して、本事業では、最終的な目標としてフィジーを含むオセアニア（南太平洋地域）における既存の開発援助のあり方に再検討を加えるとともに新たな可能性を積極的に追及する。

【体制】

本事業の総括は、アジアや太平洋地域で地球環境問題をテーマとする調査研究に従事してきた申請代表者である大西秀之が担当する。

他方、ESD データ収集のための現地調査は、オセアニア地域研究を専門とする石村智と現地コミュニティを対象とした環境保護プロジェクトを推進している南太平洋大学のLeone S. Limalevuが中心となり、大西を始めとする各メンバーの専門分野の視点を交えつつ、環境変化に関する共同調査を実施する。

また、ESDカリキュラムと教材開発は、開発教育を研究・実践してきた藤原孝章が中心となり、フィジーを含む太平洋地域でESDを実践している南太平洋大学のMurari LalとAliti Koroiと意見交換を行うとともに、大西と石村の現地調査に基づく見解を踏まえながら、学校教育・社会教育の場で使用するカリキュラムと教材の開発をメンバー全員で分担・推進する。

【成果物】

本事業では、フィジーの公用語である英語と日本語で、ESDカリキュラム・教材として小冊子（ファイルブック）とCDもしくはDVDの形式でデジタルコンテンツを作成し、南太平洋大学をはじめとするフィジーの教育関係当局・教育機関に無償配布する。また、これらのコンテンツを転用してフィジー博物館の展示パネルとして活用することも計画している。

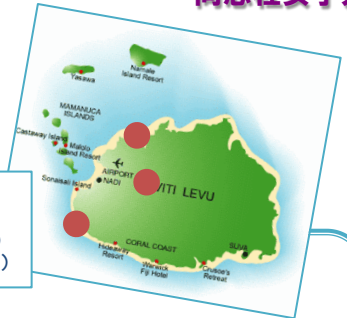
フィジー諸島共和国における自然・文化環境保全のためのESDカリキュラム・教材の開発



同志社女子大学

目的

グローバル化の進展に伴う開発・近代化によって社会・自然環境・ライフスタイルの変化が著しいオセアニア(南太平洋地域)の島嶼国の一つであるフィジー諸島共和国を対象として、現地住民を主体者とする環境保全に向けたESDモデルの構築とそれを実施するためのESDカリキュラム・教材の作成をめざす。



現地調査地
 ●バブ(Bavu)
 ●ボツフ(Votua)
 ●ナバラ(Navala)

活動計画



成果物

本事業では、フィジーの公用語である英語と日本語で、ESDカリキュラム・教材として小冊子(ファイルブック)とPPT形式のデジタルコンテンツを作成し、南太平洋大学をはじめとするフィジーの教育関係当局・教育機関に無償配布する。



現地調査



ESD実践